

令和元年度東京都立大江戸高等学校学校経営報告

令和2年3月
校長 樋口博文

1 今年度の取組目標と方策について（成果と課題）

(1) 教育活動の目標と方策

ア、学習指導

- ① 教科会や委員会(学力向上及び進学対策)を計画的に実施することで授業改善を図り、組織的で計画的な学習指導体制を構築する。
- ② 「都立高校学カスタンダード」事業を通して教科マネジメントを定着させ、主体的学習へ向けた指導を充実し、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。
- ③ ルーブリック評価等を取り入れた評価の工夫を行い、生徒の意欲を高める。
- ④ 読書(新聞等も含む)活動を充実し、生徒の言語能力の向上を図る。

【成果】①教科会や委員会を定期的に実施したことで、授業改善に向けて積極的に取り組むことができた。時間講師との情報共有と連携を密にしたことで、組織的な学習指導体制を図ることができた。②主体的な学習を取り入れた授業を展開するとともに振り返りシートや確認テスト等を実施し基礎基本の定着を図っている。教科横断型の授業を情報と理科で試行した。③各教科においてルーブリックを取り入れた評価方法を検討および改善に向けた取り組みを図ることができた。④図書館と連携した授業は延べ164回実施した。授業における発表活動や書評合戦に向けた取り組みにより、言語能力の充実を図れた。

【課題】学力層が多岐であるため、個別の学習指導法や評価方法の確立が必要である。教科横断型授業の研究と構築を図る。次期学習指導要領に向けた各教科における「資質・能力の3つの柱」を伸ばすための研究及び授業改善とルーブリック評価については更なる改善、研究が必要である。

イ、生活指導

- ① 安心・安全で落ち着いた学校生活を推進する。地域からも信頼される規範意識(身だしなみ、生活習慣)の育成を行い、生徒一人一人の社会的・職業的自立につなげる。
- ② 生徒の個別状況を早期に把握し、きめ細かく組織的な指導を行なう。
- ③ 校内美化、省エネ、節電について考え、実践する力を培う。

【成果】①生徒は落ち着いた学校生活を送れている。学校評価アンケート(地域)では「応援したい」という回答が90%となった。来校者等に対して安全管理の強化のため、名札の着用等の徹底を図った。②教育支援員会を毎週開催し、生徒の状況や支援を要する生徒の情報共有・指導の方策、早期の対応を行った。YSWの活用は年間延べ610件と増加し、生徒事情に応じた組織的な対応ができた。③校内美化については学期ごとの美化デーや日々の清掃活動を通して概ね定着してきている。

【課題】人間関係の構築等により不登校となる生徒に個別の支援を行うとともに、YSW等の相談を効果的に繋げて行く。

ウ、進路指導

- ① キャリア教育全体計画を組織的に実行し、1年次から計画的・段階的に、コミュニケーション能力、社会性の育成を含めたキャリア教育を充実させる。
- ② 三修制、四修制に配慮した進路指導体制を確立し、ガイダンス機能を充実させ、希望進路を実現する指導を行う。
- ③ 特別な支援を必要とする生徒に対しては、組織的な就労支援体制等を構築し、卒業後の移行支援を見据えて指導する。
- ④ 卒業生に対して、定着指導・支援を行う。

【成果】①キャリア教育について全校で共通理解を持ち、組織的・系統的に実践した。1年次から上級学校訪問を実施し進路意識の向上を図った。外部人材と連携し、体験的な学習の機会を設定したことでコミュニケーション能力の向上に繋がっている。②進路ガイダンス

スを充実させることで丁寧な進路実現を図れた。③ハローワークやYSWと連携し組織的な就労支援を図った。④継続的な支援を行っていく。

【課題】進路意識を早期に高め、各年次における履修指導の共通理解・指導の充実を図る。三修制、四修制に配慮した進路指導は一律の指導の他、個別対応を含めて指導・支援することが必要である。本校での卒業に向けて全教職員が共通認識をもち、進路指導のみならず、教育活動全体を通じた指導体制の推進を行って行きたい。

エ、特別活動・部活動・その他

- ① 学校行事の内容についての精選と充実を図る。
- ② 生徒会や部活動において生徒が積極的に地域活動に関われるようにすることで自己有用感や社会性を高める。
- ③ 地域と連携した避難訓練等の実施により、社会連帯の精神と責任を重んずる態度を育成する。
- ④ 体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動、教育活動を展開する。
- ⑤ オリンピック・パラリンピック開催に向け、ボランティアマインドや国際感覚を醸成する。

【成果】①体育祭、文化祭等については、オリ・パラ教育を取り入れ、競技のスタートコールを英語で行う等、新たな内容を取り入れて行事の充実を図れた。生徒の学校行事満足度は78.2%(学校評価アンケート)である。②地域の幼稚園や保育園の運動会補助等のボランティア活動や特別支援学校との生徒会や部活動交流を行い、コミュニケーション能力・社会性の育成を図れている。③避難訓練は本校の実態や地域のハザードマップを踏まえて計画的に行い、消防署の指導・協力を得て実施している。④問題なく行われている。研修や面談を通じて教員の意識を継続して高めて行く。⑤図書委員会による地域の図書館との交流や東京学校図書館スタンプラリーの参加等②を含め行っている。

【課題】学校行事については参加者の満足度は高いものの、4年次生の参加率が低迷している。不参加生徒の意欲を高める方策が求められる。

オ、健康づくり

- ① 「アクティブプランto 2020総合的な子供の基礎体力向上方策（第3次推進計画）」に基づき、体力向上を目指す。
- ② 多様な生徒に対応した教育相談体制の確立を図り、心と体の健康づくりへの組織的な取組を行なう。また、自殺の未然防止を図る。
- ③ 学校保健計画に基づき、生徒・保護者が主体的に健康に関する意識を高めるよう、組織的指導の充実を図る。
- ④ 学校給食を活用した食育を一層推進する。

【成果】①運動における二極化の中、体育の授業で学校独自のトレーニングプログラムを活用して基礎体力の向上を図っている。②教育相談体制は、教育支援委員会を中心に自立支援チームやスクールカウンセラーをはじめ外部機関と連携し事案の解決を図っている。③計画的に行っている。④食育の推進のため、毎食時に食のコメントや月毎の給食だよりを配布し食の意識を高めている。

【課題】給食の喫食率は4月当初は高い水準であるが部活動加入より夕部間の活動が増えるためそれに伴って喫食率が低下する傾向にある。

カ、募集・広報活動（地域交流等）

- ① 総務部が中心となり、学校情報を更に積極的に発信し、募集・広報活動の活性化を図る。
- ② 地域の関連諸機関との連携を強化し、地域の教育力の活用の促進を図る。

【成果】①募集・広報活動は夏季休業中に生徒を主体とした学校見学会を実施し、約600名の参加があった。通級や適応指導教室への説明会の拡大やホームページの充実・リニューアルに取り組みを行った。②チャレンジ指定科目や系列科目、美術、地歴、家庭科等の授業で地域の教育力(市民講師、地域企業、地域小中幼保、地域児童館、図書館、障害者高齢者施設等)を活用できた。

【課題】外部の学校説明会において、本校の教育活動を効果的に広報して認知してもらう

工夫が必要である。

キ、学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とし、主幹教諭や分掌等主任、経営企画室が一体となった学校運営体制を構築する。
- ② 校内研修の充実、目指す学校像の共通理解を図り、一貫した協働的指導体制を確立する。
- ③ 学校経営計画の実現を目指す経営参画型経営企画室としての機能強化を図る。
- ④ 施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。

【成果】①企画調整会議を効果的・効率的に機能させたことで、職員会議の回数減につながった。②グランドデザイン策定を通して、必要とされる教育課題の共有を図った。③引き続き実施していく。④防災委員会や防災教育推進委員会の協力のもと、学校危機管理計画、警報発令時の登校等、実態に即した内容に改定した。

【課題】主幹教諭層を中心とした組織体制は出来ているので職層に応じたOJTを充実させたい。授業力の向上と進路指導力の向上体制を、本校の特別支援体制にまで伸ばしたい。

(2) 重点目標と方策

ア、学習指導

- ① 学力向上研究校(校内寺子屋)、授業日の空き時間や土曜講習(かもめ塾)、授業TT、長期休業中を利用した補講・補習などの組織的・計画的な指導体制を、進学対策委員会や学力向上委員会等を中心として確立し、習熟度に応じた学力向上を図る。
- ② 教科の特性に応じた「主体的・対話的で深い学び」を研究・実践する。またそのために、授業力向上のための校内研修の実施や校外研修(指導教諭授業参観、研修センター研修、民間研修等)への参加を行う。
- ③ 各教科でルーブリックやポートフォリオやパフォーマンス評価など多面的な評価方法を研究・研修・実践し、学習到達度や学習経過の評価を生徒に還元することで、生徒の学習意欲の向上につなげる。
- ④ 授業を初めとする教育活動での図書館利用を推進することで読書活動を活性化し、一人一冊以上読破を目指す。また、校内での「高校生書評合戦」を充実させる。
- ⑤ JETプログラムやALTを積極的に活用し、語学力向上だけでなく、広く異文化理解に繋げる。
- ⑥ 教科担任とクラス担任の連携を密に図ることで履修率・出席率・修得率の向上を図る。

【成果】①寺子屋事業は、夏季休業日中より本来の形態で実施した。土曜講習を活用する生徒が少人数であるが定着している。夏季休業日の後半に講座を設けることで、2学期の登校につなげる工夫をした。②他校の授業公開等や外部機会、相互の授業参観を活用して授業改善に資する例が出て来た。③各教科でルーブリック評価等の研究・研修を開始した。④国語、美術、家庭、理科、地歴等での図書館活用時間が大幅に増加した。不読率は12.6%(2年次)であった。⑤英語によるコミュニケーションを継続的に実施できている。⑥教科担任とクラス担任の連携は密に取れている。

【課題】①教員の共通理解・認識のもと対象生徒の参加者の増加と指導内容の精選を図る。②相互授業参観の一層の推進とOJTの充実。③観点別評価を意識した評価の工夫とそのための作問能力の研究・研修・実践の推進。④⑤一層の推進を図る。⑥一層の推進を図り出席率の向上を図る。

イ、生活指導

- ① 全教職員が授業規律を維持する。特に授業開始と終了の時間を徹底して生徒の時間を守る意識を高める。また、終始のメリハリをつけるために挨拶を励行する。
- ② 全教職員が本校の指導基準を共通理解し、遅刻防止・頭髪・服装等の生活指導を行う。公共の場や交通機関、学校生活を送る上でのルールやマナーを厳守させ、規範意識を高める。特に、情報機器の適切な利用(SNSルール)を徹底する。
- ③ 特別な支援が必要な生徒への生活指導について、教育支援委員会を中心に都教委の自立支援チ

ームやその他の外部支援と連携を活用して、中途退学や不登校を未然に防止し、生徒の自立につなげる。

- ④ 清掃指導の充実を図り、校内の清潔感を保つ。
- ⑤ 1年次の二人担任制及び2年次生以上の担任と副担任の連携で多面的な生徒支援を行う。

【成果】①概ね良好である。②指導基準を共通理解した生活指導、生徒の規範意識の向上に努めている。③特別な支援の必要な生徒に対する体制は出来ている。④概ね良好である。⑤概ね連携できている。

【課題】①一層に推進を図る。②情報機器の利用方法については、年度当初より保護者等の協力を得て常に注意が必要である。③先進的な取り組みをできているが、その範囲を越えているケースにどこまで対応するかは大きな課題である。④生徒の生活委員会、生活委員会を効果的に活用して一層に推進を図る。⑤副担任の連携内容を精選し生徒支援を図る。

ウ、進路指導

- ① キャリア教育推進委員会を中心に「チャレンジ指定科目」の指導内容・指導方法を常に検討・改善する。計画的・系統的なキャリア教育を実施することで自己理解と将来設計につなげる。
- ② ハローワーク、サポートステーション等の地域機関と連携を深め、進路指導を充実させる。進学者については学力の推移、就職者については資格取得の状況を分析し、組織的に進路指導を行う。その上で1・2・3年次全員に統一した学力テストを実施し、その活用を図るとともに、資格取得を奨励する。
- ③ 特別支援教育コーディネーターが中心となり、特別支援学校と連携した進路指導の充実を図り、特別な支援を必要とする生徒に対しても「進路指導カード」を活用し、進路実現を図る。
- ④ 卒業生全員への「卒業生進路アンケート」や就職先、進学先訪問など卒業生への支援を行う。
- ⑤ 進路指導部、年次(複数担任制及び担任と副担任の連携)、教育支援委員会等が綿密に連携することで本校での卒業を大切にし、進路未定者を減らす。

【成果】①概ねできている。②外部テストの分析利用については外部人材を活用し悉皆で研修会を実施した。資格取得は延べ147件と大幅に向上した。③概ねできている。④卒業生状況を把握して在校生指導に活用している。⑤1年次より上級学校訪問等キャリア教育を推進し進路意識の向上を図った。

【課題】①生徒の職業理解・意識啓発の点では深まり切れていない。②職業開発能力センター等も視野に入れ、生徒の個に応じた指導を行う。進学指導についても高大接続改革を意識した情報の収集や指導方法の構築が必要である。③④生徒個別の対応要するが粘り強く指導・支援を行う。⑤①を深め、本校での卒業を見据えた教育活動を展開する。

エ、特別活動・部活動・その他

- ① I部生、II部生、III部生合同の学校行事、生徒会活動をより充実させ、学校行事への参加率を向上させる。
- ② 全校集会や部集会を活用し、校歌指導や講話等の指導を充実させ、大江戸高校生としての自覚と連帯意識を育成する。
- ③ 部活動加入を促進し、生徒の体力や気力の向上を図るとともに、達成感や満足感を体験させることで、主体的に活動することの意義を感じさせ、リーダー育成を図る。
- ④ 教員を対象に体罰防止、いじめ防止の校内研修を行う。また、部活動の顧問教諭は、部活動の「指導方針等」を作成し、生徒・保護者に対して説明を行い、さらに保護者に対して指導状況の参観の機会を設ける等体罰防止に向けた取組を行う。外部指導員については、経営企画室を含めて委嘱・承諾を適切に行う。

【成果】①合同の行事は計画的に行っている。部間を越えた交流は4年次を中心に見られた。②集会や学校行事において校歌指導を実施。1年次、2年次は合唱祭練習で意識を高めた。③各種大会での好成績や他校との合同練習、特別支援学校との合同練習などを通じて学校への帰属意識や達成感を養えた。④適切に行い、体罰はなかった。

【課題】①行事による参加率の向上。②一層に推進を図る。③部活動加入率の向上、生徒の興味関心を高める活動内容の工夫を行う。④引き続き適切に実施する。

オ、健康づくり

- ① 「精神科医の校医事業」、「都立高等学校等への特別支援教育心理士巡回相談事業」及び「高等学校における発達障害教育支援員等活用の研究事業」の実施校として、専門家のコンサルテーションを生かすとともに関係機関との連携を図る。
- ② 新たな感染症、心の健康づくり、食物アレルギー等の健康課題を理解するための校内研修を開催し、組織的で具体的な取組への実践力を高める。生徒対象には、薬物乱用防止教室、情報モラル・リテラシーに関する教室、交通安全教室、喫煙防止教室等を開催する。保護者にも保健便り、カウンセラーだより、講習会参加など子ども理解のための支援を行う。
- ③ 栄養職員、学級担任等が中心となり、学校給食等を活用した食育の一層の推進やテーブルマナー講習会の実施を通して、正しい食生活、食に関する知識・理解を深めさせる。

【成果】①体制は整っている。②適切に実施できている。③給食において、毎回、その日の食をテーマにしたプリントを配布して食に対する意識を高めている。

【課題】①諸事業の活用に対する精神的な壁を作っている生徒・保護者に対する支援方法が課題である。②すべて継続的に実施していく。③1部生・2部生の食については把握しきれていない。生活アンケート等で把握・指導をすることが課題である。

カ、募集・広報活動（地域交流等）

- ① 学校説明会・見学会や適応指導教室、教育相談室及び1年次生出身中学校等への訪問を実施し、学校情報を提供する。また、退職教職員等ボランティアも活用し、個別学校見学への対応を行う。
- ② 増学級に伴い、募集広報活動を練り直し、本校で自己実現できる受検生の応募数増加を図る。
- ③ ホームページの充実を図り、適宜で内容を更新する。
- ④ 各種通知文や通信等の配布状況を保護者向けにHPで案内し、教育活動の周知及び理解・協力を図る。

【成果】①②すべて順調に実施し募集数の増加につながった。③HPは適宜更新に努め、リニューアルを実施した。④生徒配布資料等をHPにて案内した。地域の町会にむけて広報誌（かわら版）を配布し教育活動の周知・理解を図った。

【課題】広報活動の効果を検証するとともに教育内容の充実を図る。地域住民への理解を図るため、学校案内を各町内会の協力のもと行っていく。

キ、学校経営・組織体制

- ① 「OJT診断基準」、「執務ガイドライン」を活用し、教員が一体となって学校運営に当たっていく体制を構築する。
- ② 「経営参画ガイド」や事例集を活用し、経営企画室の経営参画を推進し、教育職員と行政職員が密接な連携の下、学校運営を進める。
- ③ 施設・設備の安全確認・効率的利用の視点から校内外を巡視し、より安全・安心な学校環境を整備し、不備による事故をゼロとする。町内会の一員として、地域ぐるみで地域を含めた防災教育の推進を図る。
- ④ R-PDCAを定着や企画調整会議録の電子回覧等で、引継ぎ業務の効率化や会議時間の短縮を図り、ライフ・ワークバランスを推進する。また、長期休業日中における休暇取得の促進と定時退校を推進する。

【成果】①②体制は徐々にではあるが整いつつある。③校内点検は校内巡回、巡視指導を実施し毎日数回行っている。④職員会議の回数減や打合せの簡略化を実施した。統一書式を作成し引継ぎ業務の効率化を図った。

【課題】①②は異動が伴うことから、毎年意識を高めることが必要である。③継続して実施して行く。④R-PDCAを定着や企画調整会議録の電子回覧等は引き続き推進する。

ク、数値目標

- ① 生徒による授業評価において、満足度、理解度を85%以上。【満足度88.3% 理解度86.6%】
- ② 教員によるお互いの授業参観を学期1回以上、授業に関する校内研修を年間1回以上。

【授業参観 年間延べ54回 若手研修を活用した校内研修を3回実施。】

③ 1・2年次の基礎学力テストで、英語、数学の学力段階D3を30%以下、C以上を30%以上。

【D3 1年数学40% 2年数学23% 1年英語35% 2年英語28%】

【C以上 1年数学20% 2年数学18% 1年英語17% 2年英語35%】

④ 資格取得を奨励し、資格取得者140名。【147名】(知識及び技能審査申請者延べ数)

⑤ 生徒の進路決定率85%以上。【79.1%】

⑥ 文化祭、体育祭への生徒参加率85%以上に。【文化祭75.3% 体育祭81%】

⑦ 5月の部活動加入率70%以上、全国大会出場4部以上、さらに、12月末の部活動加入率60%。

【12月49%、全国大会出場2部】

⑧ 学校説明会の参加者2000人以上、退職ボランティア等を活用した個別訪問対応600人以上。

【学校説明会 1536名 退職ボランティア等個別見学 197名】

⑨ 入選倍率1.5倍以上。【1.52倍】

⑩ 給食喫食の生徒率(3部生の)65%以上、実際の食数率60%以上。

【喫食数45.8% 食数率83.3%】

⑪ HPの更新を年間100回。【92回】

⑫ 自律経営推進予算のセンター執行割合60%。【57.97%】